



長 崎 県
中小企業家同友会

DOYU

ニュース
21

E-mail jimu@nagasaki.doyu.jp
U R L http://www.nagasaki.doyu.jp

本部事務局 長崎市栄町1-20 大野ビル5F ☎(095)822-0680 FAX (095)824-4623

「不離一体・中小企業経営に役立つ同友会活動の実践」 ～同友会活動が企業を支え、地域を育てる～



第49回 中小企業問題全国研究集会 in 長崎 時代の大転換期に立ち向かう覚悟と実践 「人を生かす経営」を広げ、地域再生を

2019年

2 / 21 (木) · 22 (金)

会場

● ホテルニュー長崎 ● ルークプラザホテル
● サンプリエール ● ザ・ホテル長崎BWプレミアコレクション

開催概要

日程 2019年2月21日(木)22日(金)
会場 ■ ホテルニュー長崎(第1分科会、懇親会、2日目全体会)
■ ルークプラザホテル(第2～第5分科会)
■ サンプリエール(第6～第8分科会)
■ ザ・ホテル長崎BWプレミアコレクション(第9～第12分科会)
※受付は各分科会の会場にて行います。

参加費 23,000円(宿泊費別)

主 催 中小企業家同友会全国協議会(中同協)
〒102-0074 東京都千代田区九段南4-7-16市ヶ谷KTビル3F
電話:03-5215-0877 FAX:03-5215-0878 HP:www.doyu.jp

スケジュール

2月21日(木)
12:00 受付開始
13:00 分科会開始
18:00 分科会終了
移動
19:00 懇親会開始
20:45 懇親会終了

2月22日(金)
9:00 全体会開始
「被爆地の市長として -Peace from Nagasaki-」
長崎市長 田上 富久氏
記念講演「夢持ち続け日々精進」
(株)A and Live 代表取締役 高田 明氏
12:00 閉会

設 営 長崎県中小企業家同友会
〒850-0875 長崎県長崎市栄町1-20大野ビル5F
電話:095-822-0680 FAX:095-824-4623 HP:www.nagasaki.doyu.jp



長崎全研特設ページ
www.doyu.online
長崎全研に関する詳細な
情報は随時、長崎全研特設
ページにてアップします。

※大浦天主堂の写真撮影・写真掲載に当たっては大司教区の許可をいただいております。

目次

第49回 中小企業問題全国研究集会 in 長崎 開催案内	1	長崎女子短期大学 模擬面接 参加報告	15
各界からの提言	2	九州・沖縄ブロック2018年度 代表理事・事務局長 研修交流会 & 代表者会議 参加報告	15
長崎県青年経営者会 35周年記念懇親総会 参加報告	3	新入会員紹介	16
11月例会報告	3	会員活躍	17
青年経営者全国交流会 in 沖縄 参加報告	10	事務局企業訪問	19
2018年度 第2回 新入社員フォローアップ研修 参加報告	11	理事会報告	20
ダイバーシティ委員会 第11回 例会 開催報告	12	会員動向・会員数	21
What is 共同求人?	14	1月例会案内	22

各界からの提言

(株)親和銀行 取締役頭取(代表取締役) 吉澤 俊介



プロフィール

■生年月日：昭和31年2月8日

■略歴

- ・昭和53年 3月 慶應義塾大学法学部卒業
- ・昭和53年 4月 (株)親和銀行入行
- ・平成14年 4月 総合企画部長
- ・平成17年 6月 本店営業部長
- ・平成18年 6月 執行役員 本店営業部長委嘱
- ・平成19年 3月 執行役員 審査部長委嘱
- ・平成19年 6月 常務執行役員 総合企画部長
- ・平成19年 8月 (株)ふくおかフィナンシャルグループ 取締役
- ・平成19年10月 (株)親和銀行 取締役専務執行役員(代表取締役)
- ・平成21年 4月 (株)ふくおかフィナンシャルグループ 取締役執行役員(現職)
- ・平成24年 4月 (株)親和銀行 取締役専務執行役員(代表取締役) 長崎代表委嘱
- ・平成26年 4月 (株)親和銀行 取締役頭取(代表取締役)(現職)

長崎県中小企業家同友会におかれましては、「自主・民主・連帯」の精神のもと、全国に広がる中小企業家のネットワークを活かし、地域経済の恒久的な発展のため日々研鑽に励まれ、地域金融機関としてその志に共感し、熱心なお取組みに対し敬意を表します。

私も皆様の活動の場に出席させていただいたことがございますが、会員それぞれが真剣に熱意をもって取り組んでおられるお姿が目には焼きついております。

さて、親和銀行は長崎県内を中心に87店舗を展開し、地域金融機関として地元経済の発展のお手伝いをさせていただいております。金融機関を取り巻く環境は厳しく、異業種による金融業への参入、デジタル技術の進展など、目まぐるしいスピードで変化しており、構造改革の更なる推進の必要性を感じております。

長崎県の人口は他の地域を上回るペースで減少が進むと予想され、将来推計人口では30年後には生産年齢人口(15歳以上~65歳未満)が約40%も減少するといわれています。近い将来、景気の良し悪しに関わらず、「働く人(生産年齢人口)の減少による人手不足」という深刻な課題が企業経営を襲うことは想像に難くありません。

そこで企業経営者は、人手不足を補うために「労働生産性」を高めることへの意識が必要になろう

かと思います。そして、その実現のためには「ICTの利活用」と「働き方改革」が重要なキーワードとなるのではないのでしょうか。この二つの「改革」に取り組むには、まず経営者自身が自分の問題として積極的な姿勢を見せ、管理者や従業員の理解を得ながらトップダウンでリードしていく必要があります。まずは自社の課題を客観的に捉え、その課題を補うために将来を見据えた「改革」に真摯に取り組んでいかなければなりません。

親和銀行では、企業の労働生産性向上へのサポートを行っております。

「ICT分野」ではスマホ決済サービス「YOKA! Pay」の導入をはじめ、企業のICT化の支援も進めて参ります。自社だけでは解決できない場合には「企業同士の協業・マッチング支援」「産学連携サポートサービス」など、課題解決に向けた様々なツールをご用意しております。また、「働き方改革」の面では、長崎労働局様との「包括連携協定」を通じた支援体制も構築しております。

親和銀行は地域経済発展のためにお取引先や地域の期待に応えていく「ザ・ベストリージョナルバンク」を目指しています。お客様一人ひとりに寄り添ったサービスを提供し、地域の皆様と共に成長し、活力ある長崎の未来のために貢献して参りますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

長崎県青年経営者会 35 周年記念懇親総会 参加報告

開催日時：11 月 28 日（水）19：00～ 会場：那覇市東町「赤とんぼ」（沖縄同友会会員の店舗）



この度、長崎県青年経営者会は 35 周年を迎える事が出来ました。これもひとえに諸先輩方が築き上げてこられた努力と現会員さん、それを温かく支えていただいている本会の皆様のおかげです。本当にありがとうございます。

この 35 周年の佳節にいいよ来年 2 月に行われる「長崎全研」を見据え、また、長崎より全国にうって出て他県の若手経営者との交流を図る為、11 月末に行われた「青全交」の前日に、開催地の沖縄で「長崎県青年経営者会 35 周年記念懇親総会 in 沖縄」と銘打ち記念イベントを行いました。長崎からは青年経営者会会員 13 名、松尾全研実行委員長、時政策委員長、事務局の田口さんに参加いただきました。また、北九州懇話会、福岡青年部、熊本青年部、鹿児島青年部、そして青全交前日の大変な時にも関わらず沖縄青年部の方々にも駆けつけていただき九州各地の皆さんと共に祝い出来た事が大変うれしく思いました。

九州全域の青年部が一同に集まり、しかも長崎の呼びかけで集まる事ができたことは大変素晴らしい誇



りに感じる事ができました。今回 35 周年を記念し、長崎浦上支部の笹田さんに依頼し青年経営者会の襟章を製作。会の席上会員さんは当然ですが、松尾全研実行委員長の提案で参加していただいた他県青年部の方々へも長崎との絆の証としてお配りさせていただきました。この襟章は今後、青年経営者会に入会される方々へ贈呈して参ります。

そして、参加者全員に自己紹介を含めご挨拶をいただきながらあっという間に時間が過ぎ盛会のうちに青年経営者の熱い語らいの中、学び多き総会を無事終了し、それぞれ沖縄の夜を楽しむ事ができました。

翌日からの青全交や中同協青年部連絡会も素晴らしく、しっかりと学びあうことができました。いいよ「長崎全研！」目標は会勢 100 名！先輩方より受け継いだバトンをしっかりと承継し、進んで他県とも交流を図り全国に誇れる青年経営者会を築き引き継いで参ります。また、近い将来に長崎の地で青全交が開催できるよう、一致団結して会員さんお一人お一人が誇れる最高の組織を築いて参ります。

（文責 青年経営者会会長 安井 忠行）

長崎浦上支部 例会報告

日 時	11 月 20 日（火）18：30～21：00
会 場	長崎ブリックホール 4・5 会議室
テ ー マ	今こそ事務作業の見直しをしませんか？事務処理の断捨離で最適にスリム化する～引き算式提案型アウトソーシングとは～
報 告 者	TM 事務ソリューション 代表者 満越 正 会員

溝越さんは 10 月より独立され、多忙な時期の報告となりましたが、「報告は自分のためにある！」と

いうアドバイスを受けられ、この日を迎えられるそうです。また溝越さんは、入会 2 ヶ月目には自ら報告を希望されました。その姿勢から勇気や行動力のある持ち主と感じ、お話を楽しみにしていました。

報告は生い立ちから始まり、お姉さんが昼夜問わず働かれ、高校の授業料を出されたことに、今でも感謝の気持ちを持っておられる人柄に共感を覚えました。

大学卒業後は会計事務所に就職。持ち前のガッツで励まれ、役職にも就かれました。その中で、某社長を自分の知識のなさから助けることが出来なかったと自責の念に駆られながら邁進されました。そんな折スカ

ウトされ、2017年8月より(株)TMジャパンに入社。グループ会社の総務部長と長崎支店支店長を兼任。1年間で3つの事業を立ち上げる(人材派遣事業・損害保険代・事務アウトソーシング事業)など素晴らしいご活躍でした。ただ経営についてよくわからないことも多くあり、今年6月に同友会に入会。その後会社の長崎支店撤退に伴い独立。これまでの経験を活かし、事務アウトソーシング事業として、事務効率化提案などを主にやっておられます。

これまでの経験から、「自分のできることを頑張ることで、他力が降りてくる」と言われた言葉が印象的でした。グループ討論では、「事務といっても多種多

様にあることを今さら気づいた」「事務作業の見直しをしたい」「事務の外部委託を検討したい」と事務の効率化を考える方が多いようでした。

事務員の不足、事務作業が多くていつも残業時間が多い会社の方は、一度溝越さんの、引き算式提案型のコンサルティングを受けて、事務作業をスリム化してはいかがでしょうか？苦労された溝越さんだからこそ、親身になって相談にのっていただけると確信しました。

(文責 岩 素子)

長崎出島支部 例会報告

日 時	11月20日(火) 18:00～20:30
会 場	サンプリエール
テ マ	来たる全研に向けて！ 模擬グループディスカッション
報 告 者	長崎出島支部 1班メンバー



今回は通常の例会とは違い、架空の報告者を立て、グループ長や発表者などの役割を出島支部1班のメンバーで設定し、様々なシチュエーションを考えながら、グループ長とはどういう役割なのか、どういう進行をしていくと良いグループディスカッションができるのかを解説を交えながら「模擬グループディスカッション」として参加者の方々に見ていただきました。

「模擬グループディスカッション」を見て、ディスカッションテーマである「良いグループディスカッションをするには、あなたならどうしますか？」というテーマに参加者一人一人が向き合い、グループ長の進行の大切さや難しさを改めて確認し、今後のグループディスカッションをより良い時間にする為の学び場になったように感じました。

グループディスカッション後のグループ発表や質疑応答でも様々な意見が飛び交いましたが、質疑応



答の時間でとても印象的だった事が、「模擬グループディスカッション」で解説者として良い例や悪い例の解説をされていた中村こずえさんが「質問

として様々な質問が皆様から出ておりますが、答えという答えは無いように思いますので今回出た質問は参加者の皆様一人、一人に答えていただこうと思います」と仰り、参加者の一人、一人を指名しながら各グループの質問に答えていく事でした。中小企業家同友会という学びの場で参加者全員で考え、答えを求めていく。とても同友会らしい学びの時間となりました。



最後に萩田支部長から、来る2月の全研に向けての意気込みを聞き、長崎出島支部として一丸となり全研に取り組んでいく気持ちを高められた例会となった。

りました。

(文責 永石 一成)

大村支部 例会報告

日 時	11月26日(月) 18:30～21:15
会 場	長崎インターナショナルホテル
テ ー マ	グループディスカッション グループ長研修
報 告 者	(株)広告のアクセス 代表取締役 山領 進 会員(佐世保支部)



今回の例会は、来年開催される長崎全研を見据え、「長崎全研に向けてのグループ長研修」をテーマに2部構成で開催されました。

9月に開催された県の役員研修会に倣い、前半を副代表理事の山領さんより、グループ長の役割や心構えなどをご報告いただきました。

後半は大村支部の厳しいオーディションを勝ち上がってこられた、5名の役者？会員さんに登壇いただき、模擬グループディスカッションを行いました。

山領さんの報告では、グループ長は①報告内容をリサーチするなど、事前の準備が大切。②さわやかな挨拶など、参加者の方が発言しやすい雰囲気づくり。③参加者の発言をただ聞くだけでなくメモを取り「傾聴」すること。④発言者へのお礼、良い発言は褒める。⑤背筋を伸ばして顎を引く。など、大変わかりやすくご報告いただき、グループ長の役割、心構え、姿勢を学ぶことが出来ました。

後半の模擬グループディスカッションでは、役員研修会で使用した台本をもとに5名の支部会員により模擬グループディスカッションを行い、それを参加者全員で見学するという内容でした。

前半の山領さんの報告を良いモデルとして実演することにより、具体的なグループディスカッションの進め方、全体の流れが非常によくわかる内容となりました。またプロジェクターを使用して、場面ごとに山領さんによるポイント説明もあり、視覚的にも効果的で学びの深い報告となりました。

本番のグループディスカッションでもテーマを2つ決め、30分の2部構成とし、テーマごとにグループ長と発表者を交代して行いました。各テーブル、普段の例会以上に活発で熱気のあるディスカッションが行われていたと感じました。



総評では、金井代表理事より「今回の例会が、通常の経営体験ではなく研修だったからなのか、支部の会員の参加が少し少なかったのが残念だった。

グループ長は、準備、気遣い、心遣いができないと務まらない。経営者の仕事と大いに通じる事がある。この研修を一時の単なる研修にとらえることなく、自社に持ち帰り、自社の経営に役立てていくことが大事だ。」と、参加者全員が気持ちを引き締め直したまとめとなったように思います。

今回は他支部からの参加者も多く、金井代表理事の「全研に行くぞ！」の掛け声のもと参加者全員が一致団結して熱気あふれる締めとなりました。

このグループ長研修を、全研までの一過性の研修とする事なく、毎年開催するべきだ！そう思える例会となりました。山領さん、並びに大村支部の役者の皆様、ありがとうございました！

(文責 谷 信一郎)

諫早支部 例会報告

日 時	11月14日(水) 18:30～21:00
会 場	諫早観光ホテル 道具屋
テ ー マ	職人から経営者へ ～こだわりと、事業展開～
報 告 者	(有)後田木工所 代表取締役 後田 隆二 会員



1967年、先代が後田木工所を設立。二代目の後田さんは、兄が後田木工所を継ぐと思っていましたが兄はスポーツで企業からオファーがあり、企業に就職することになります。当時後田さんは高校生でしたが、先代の後を継ぐと決意します。修行の為に他の会社に就職して修行をしていましたが、先代に呼び戻される形で後田木工所に入社。後田木工所に入社してからが本当の修行の始まりでした。

2012年に社長に就任、木製建具工事を行っていましたが、今の新築住宅の需要は建材メーカーの規格品がほとんどで伸び悩んでいました。そんな時自分達



の仕事は自分達でつくろうと考え、不動産業務を立ち上げます。一軒目は設計士丸投げの建売住宅、見学に来たお客様からのご意見を次に活かし二軒目、三軒目と作っていき、三軒目にはやっと自分達のスタイルの家が出来ます。万人受けするのではなく、建具屋が住みたくなる本気の家が完成しました。

しかしながら集客には苦勞していてやっとのおもいで販売をされたそうです。原因はマーケティングなどの不足と感じていました。そして、新しい事業として家具のホームドクターを立ち上げ、チラシで集客を行うと予約殺到。半年前から大事にチラシ取っておいたお客様からの依頼で、嫁入り道具の家具を修理した時には大変喜ばれたそうです。今後もこだわりの木の良さを伝えていきたいと言われておりました。

また、インターンシップも行っており、将来、若者の雇用、障害者の雇用もやっていきたい、元請の仕事もどんどん増やしていきたいそうです。後田さんの木への思い、お客様への思いがよく伝わる報告でした。

(文責 寺尾 昌晃)

島原支部 例会報告

日 時	11月22日(木) 19:00～21:15
会 場	HOTEL シーサイド島原
テ ー マ	共同求人委員会概論 ～人材不足の解決は、まず内的要因の解決から～共同求人を知れば、同友会がわかる～
報 告 者	ブライアント(株) 代表取締役社長 橋口 久 会員 (佐世保支部)

現在の社会情勢は、少子高齢化、人口減少により、人材不足で、頭を悩ませている経営者の方が多い。島原半島も例外なく、地域企業には残らず、都会に出ていく若者が多く求人を出してもなかなか社員さんが見つからないのが現状です。

そういった様々な問題の外的要因から話が始まり、それなら、どうしたらいいのか？まずは、内的要因の解決が大切だと気付きました。企業を永続的に経営するためには、求人活動がつきものですが、共同求人



最大の目的は、求人ではなく企業づくり、人づくりの経営環境づくりです。まずは今いる自社の社員さんを選ばれる企業にならなければ、新卒、中途の新たな求職者を選ばれることは難しいのではないのでしょうか。企業の使命として、良い人材を確保し、社員さんと共に成長、そして長く働いてもらう、まさに企業づくりは、人づくり、経営環境づくりです。選ばれる企業と



なるためには、経営指針作成、共有システム、ダイバーシティ、共同求人との4つの柱が重要です。

経営指針では、10年ビジョンが追加され10年後の会社が社員さんにとってワクワクするビジョンを描き、共有システムでは、社長さんだけ、社員さんだけが勉強するのではなく共に成長して勉強するシステムをつくり、ダイバーシティでは、短期的に雇用するのではなく、長期的に雇用できる環境をつくり、共同求人委員会では、これらの3つの基盤のクオリティを上げるため、経営者塾をつくり、合同企業説明会の開催



を目指しているのが分かりました。

グループディスカッションでは、事業承継、人間関係、人手不足、コミュニケーション不足で社員さんが辞めていくなどの意見が出ていました。対策としては、個々にランチに行ってコミュニケーションをとる他、ラインなど、SNSの活用、週一回朝礼で問題点に関して話し合いをするなどがありました。

(文責 池田 知謙)

佐世保支部 例会報告

日 時	11月21日(水) 18:30～22:40
会 場	アルカスSASEBO 3F 大会議室
テ ー マ	ダイバーシティ委員会プレゼンツ 女性が輝ける会社になるために
報 告 者	Studio Dream (美容業) インストラクター 関 ひろみ 会員 (株)フォーオールプロダクト (福祉事業) 代表取締役 石丸 徹郎 会員 リーブルミュージック (ミュージシャン) 代表者 浦崎 健治 会員 スタイリッシュワーズ(有) (美容業) 代表取締役 綿川 洋 会員

佐世保支部ダイバーシティ委員会主催で、「女性が輝ける会社になるために」をテーマに例会を行いました。

一般的にダイバーシティとは、性別、年齢、身体的特徴、国籍、宗教などの多様性に価値を見出し、企業の成長に生かすという考え方です。これまで県の委員会では外国人の雇用や、特別支援学校の生徒の雇用に関する例会を行ってきました。

今回は、特に身近な女性の雇用に関して学ぶことで、ダイバーシティ経営を考えるきっかけにしてほしいと考え、企画しました。そこで女性の雇用、また女性と共に事業をしている4名にパネラーとしてご登壇いただき、様々な取り組みを紹介していただきました。

4名とも職種が違いますが、様々な工夫をしている



ことがわかりました。勤務に制約がある中でも、時間の調整や在宅ワークで本人の可能性を広げるように工夫する、病気や出産などの際は、チームでカバーをする取り組み等が報告されました。また女性のキャリアアップの動機付けと課題、ワークライフバランスに関する各社の意見も聞くことができました。

4社の話の中で特に印象に残ったことは、コミュニケーションの取り方についてです。日頃から経営者と相談しやすい雰囲気づくりを心掛けたり、ちょっとした心配りで、皆が楽しく働ける環境はできるなど、つい見落としがちなコミュニケーションの大切さに気付かされたように思います。報告者への質問でもコミュニケーションに関する悩みが多く聞かれました。

佐世保市役所の男女共同参画課からもご参加いただき、女性を雇用する際の制度や佐世保市独自の制度(佐世保市女性活躍応援宣言登録制度)の話も併せて紹介していただきました。



急速に進んでいる人口減少の側面から考えても、企業を発展継続するためにはダイバーシティの考え方を積極的に取り入れていくことがますます重要になって



いく。今回の例会を通してそういう思いが強く残りました。

(文責 山崎 秀平)

北松浦支部 例会報告

日 時	11月20日(火)
会 場	松浦シティホテル
テ ー マ	事業承継 昔の考え方は通用しない ～文化の時代は多様化の時代～
報 告 者	九州教具(株) 代表取締役社長 船橋 修一 氏



九州教具(株)は1946年に創業し、創業者であり教育者であった本田嘉末氏は、戦後間もない創業期に「誠実にして 正確を旨とし 社会に貢献すべし」と企業理念を記され、現代の多様な価値観の「文化の時代」においても同社の道標とされています。物販業として創業された同社の経営環境を船橋氏は刻々と変革させてきました。「ホテル事業部」というサービス部門で実践・検証をし、「ソリューション事業部」でその運用ノウハウを付加価値として、お客様へ最適なソリューションを提供するビジネスモデルを確立されています。

船橋氏は、事業承継の問題点に関し「後継者が継ぎたくなる会社」ではないのではないかと問題提起されました。時代と共に経営環境は刻々と変化しています。1990年代前半のバブル崩壊とともに「経済の時代」は終わり、多様な価値観の「文化の時代」へとパラダ



イムシフトが起きました。「予定された答えが用意され、決められた枠組みで決められた問題を解く」のが「経済の時代」ならば、「文化の時代」とは「問題設定そのものを自ら行い、そこから答えを自分で選択する」と言え、価値観が逆転します。答えのない文化の時代に必要なものは教養≡リベラルアーツであり、「人の役に立つ」ための学びです。社会に貢献し、人の役に立つ企業となるためには、企業を構成する社員一人ひとりが「人の役に立つ人間になる」という強い思いがなければならないと船橋氏は言います。

また、企業の社会問題への関与に関して「CSV経営」(CSVとはCreating Shared Valueの略で、「共有価値の創出・創造」という意味)について、実際に同社が行われている実践例をご紹介いただきました。長崎大学の医学部・歯学部の子生向けに「文化の時代のCSV経営の実践」と題した講義や、長崎大学1年生向け講義「キャリア実践」・課題解決型インターンシップを行われたり、小学校での「リーダーとは人の役に立つ人間になること」と題した授業も行っています。船橋氏は、小学生が納得できない「理想」を、社員が理解できるはずがないと言います。

同社では「ピース折り鶴プロジェクト」をはじめ積極的な社会貢献活動も行われています(詳しくはHPをご覧ください)。また、地域経済をリードする中核

企業が経済産業省に選定される「2017年地域未来牽引企業」に選定され、今後ますます地域経済を牽引されることが大いに期待されています。

最後に、お話いただいた内容は、外国人労働者の方の雇用・活躍に関することや、男女別・年功などにとらわれない役職の立候補制や、「無から有を生む」を实践された波佐見町でのホテルの開業等、ここでは

書ききれないほど大変深いお話しで目から鱗が落ちるようでした。事業承継は、まず「この会社を継ぎたい」と後継者が思える魅力的な企業であるかという事が大変重要であるをご教示いただきました。

(文責 上野 健太郎)

五島支部 例会報告

日 時	11月14日(水) 18:30~21:00
会 場	観光ビル はたなか
テ ー マ	創業者から受け継ぐもの
報 告 者	(株)ダイキョープラザ福江店 店長 高細 圭一 会員



高細さんは経営者ではありませんが、店長として創業者から受け継ぐ事に対する報告となります。

高細さんは2001年にバリューグループに就職し、2005年に五島にあるダイキョー福江店に赴任しました。福江店自体は1995年に開店し今月で丸23年を迎えます。

現在は従業員数120名を抱えて店長という立場で現場の指揮をとっています。バリューグループの創業は1976年に協同組合大協として設立し、地元食品スーパーの有志9社で共同仕入を行うようになり、これが現在のバリューグループの原形との事です。バリューが創業してから現在まで長く続く理由は、創業者が行ってきた事を今でも続けているからだと話す高細さん。

創業からの変わらない取り組み(目指しているもの)とは、超ローカルスーパーを謳い「地域の皆様の交流の場となる」との事だそうです。私自身子供が居ますが、バリューさん主催の夏祭りやこどもの日・屋台イベントなど地元民としてよく参加しております。子供が楽しめるイベントが少ない五島において家族と一緒に団欒できる機会をつくってもらい助かっていると感じております。

子供が楽しいだけではなく、大人も久々に会う友人や親戚と交流できたり素晴らしい取り組みだと思います。

また、店長としては創業者の考えを社員へ教育する立場ですが、経営者側と従業員の中間に位置するいわば板挟みの立場である為、苦勞しています。さらに男性店長として主婦が主役であるスーパーでは、特に主婦層の多い従業員との対立もあつたりと対応が難しいと話しておりました。

この立場は考え方によっては経営者より店長といった中間職のほうが苦勞が多いのではないかとディスカッションの中で話がありましたが、今後経営者としては管理職への気遣いも必要かもしれない・・・と考えさせられる報告でした。

(文責 浦上 純人)



青年経営者全国交流会 in 沖縄 参加報告

開催日：11月29・30日(木・金)

会場：ロワジールホテル、パシフィックホテル沖縄、沖縄産業支援センター他

第1分科会

青年部活動と企業経営は不離一体！

～学んで実践し会社を発展させるには～

コーディネーター

(株)つくば食品 代表取締役 茨城同友会 **八巻 大介 氏**

パネリスト

(有)日青工業 専務取締役 茨城同友会 **青木 恵之 氏**

(株)村上製作所 代表取締役 広島同友会 **村上 令一 氏**

(株)HONKI 代表取締役 滋賀同友会 **石川 朋之 氏**

仙周工業(株) 代表取締役 宮城同友会 **佐藤 周司 氏**

専務理事 **山口 善也**

29日に参加した第1分科会では、「青年部活動と企業経営は不離一体」というテーマでパネルディスカッションが行われました。4人のパネラーの一人ひとりが違う学びと実践体験をお話しされ、滋賀同友会の石川さんは何もわからない状態から青年部幹事長になり、魅力ある例会づくりや会員に方向性を示すことで、会員を100名まで増強された組織づくりについてお話しされました。

次に広島同友会の村上さんは青年部会長になり青年部会員と共に会の運営を行う中で、自分がいかにワンマンで人を信用していなかったか、信じて任せて育てる事をしていなかったか、という事に気づき自分を変えるために必死に会活動をおこない自分づくりをされた経験をお話しされました。

次に茨城同友会の青木さんは同友会の仲間との共同企画商品についてお話しされ、自分の金属加工技術と建材屋さん、木工屋さんで協力することで、新たな商品を作ることが出来たという、企業連携づくりのお話でした。

最後に宮城同友会の佐藤さんは地元の震災復興業務を地域の一員としておこなったかったが、それまで地



元での仕事をあまりおこなっていなかった為にあてにされず協力できなかった経験から、地元の新工場を建設。地元の役に立てる会社づくりをおこなってい

きたいという思いから、社員と共に経営指針を作り実践することで、地域に必要な会社になり、今後の発展に繋げる事で地域社会貢献の夢を実現させる未来づくりのお話をされました。

その後のグループ討論では、①同友会での学びをどのように会社で実践し、どんな成果を得ていますか？というテーマで討論をおこないました。多く出されたのは全国大会などの学びの場に参加するために社員の方に任せる仕組みづくりをおこなっていることや、会社内だけでなくお客様や同業者にも同友会での学びを伝えているという意見が出されました。

次に②これから1年間、来年の熊本青全交までにどんな狙いを持って青年部活動を行い、自己または会社の成長にどのような成果を出して行きますか？というテーマで討論をおこないました。このテーマでは、現在青年部に参加する会員が少ないが来年までに会勢を伸ばしてたくさんの仲間と参加したいという意見や、青全交で報告できるような会員を県で育てていきたいといった意見が出され、来年の熊本青全交の盛り上がりを感じた討論となりました。

その後、懇親会場へ移動し会場の設営や余興の龍踊り・物産展など2月の長崎全研に生かせる所も多かったです。次の日の記念講演では病気を克服し最先端の「ボディーシェアリング」研究をされている玉城さんの講演をお聞きし、ただ研究するだけでなく、起業し国内外の企業と協力して自分の夢を実現させるために挑戦しているお話を聴き刺激をいただきました。

第4分科会

業績向上は社員と共に

～雰囲気づくりと仕組みづくりが企業を成長させる～

(株)マスナガ 代表取締役 熊本同友会 **森 弘国 氏**

長崎浦上支部 **橋本 裕次郎**

第4分科会の報告者の森さんとは数年前から九州沖

縄の青年部の集まりで交流があり、彼の歴史について深く聞いたことがなかったこと、そして弊社が取り組んでいる「人を生かす経営」について深めていきかけたのが理由でこの分科会を選びました。昨年の青全交でも「一人ひとりが生き生きと輝きつづける会社」という分科会を選びました。

今回の報告でのキーワードは「仕事で主体性を発揮する社員になってもらい、人生でも主体的に幸せに

なってもら」「理念は浸透させるものではなく、共感してもら」がありました。実際森さんの会社でも社内の雰囲気良くなり、社員が主体的に仕事に関わり業績も上がっているそうです。

グループディスカッションでは「まずは社員を知ること」「減点方式ではなく、加点方式で接する」「外からの見えにくいありがたを社員に伝えることが社長の仕事」「会社の理念と個人（社員）の理念（夢、大切なもの）の重なる部分を大切に、一緒に叶えていく」というまとめになりました。今回の学びを即実践し、確認し合うために我々のテーブルはフェイスブックのメッセンジャーでグループを作り、報告しあっています。

二日目の全大会での玉城絵美氏の記念講演はとてもセンセーショナルでした。自分の腕の筋肉を電気信号で動かし、自分の意志とは違う動きをさせ、仮想体験や疑似体験をしたりする装置の開発や、A IやV R（バーチャルリアリティ）の可能性の話でしたが、今後数年で革新的に世界が変わっていき、人間の想像力の広がり技術の発達によって世界がボーダーレス化



していくと感じさせました。実践的な経営体験報告ではなかったですが、中小企業も枠にとらわれず視野を広く持っていくべきだと思いました。

青全交は3回目の参加でしたが、全国大会でいろんな経営者に会っていろんな話ができることは自分にとって財産になるし経営者の資質を高める要素になると思います。そして知り合いが増える度に、嬉しくなるしもっと頑張ろうと思います。来年度の青全交は熊本。これからは毎年参加できるように精進していきます。

長崎浦上支部 吉川 裕也

森さんは祖父の代から続く会社に入社後、「あるべき論」を掲げ、仕組みづくりに力を入れてきました。しかし、気づけば経営陣は衝突し合い、経営陣と社員の間には溝が生まれていたそうです。自分がしたいことができず、何をやりたいのかを悩んでいた時に同友会の先輩から助言をもらい、会社の雰囲気づくりに着手しました。

自分と向き合い、社員と向き合うなかで経営指針書を作成したり、社内アンケートを実施したりと、少しずつ経営陣と社員との溝を埋めていきました。現在では、まだまだ問題点はあるものの、社内の人間関係も改善され、社員のモチベーションも向上し、業績も伸びているということでした。

報告後のグループディスカッションでは、①人はど

うやったら主体性を発揮できると思いますか？②また、今日の学びを自社にどう生かしますか？というテーマで討論を行いました。グループ内でも社員の主体性をどうやって発揮させるか悩んでいたりと、自社での成功例を上げたりと熱く討論を交わしました。その中でも1番盛り上がった内容は、②の今日の学びを自社にどう生かしていくかという事でした。

「社内アンケートをしてみよう」「経営指針書を作ってみよう」など意見が挙がり、実際実践したかどうかFacebookを使って確認し合おうというグループも出てくるなど、有意義な分科会となりました。

分科会終了後の懇親会も大いに盛り上がり、普段会うことができない全国の会員さんとも交流をすることができ、いろんな刺激を得ることができました。懇親会終盤では長崎全研のPRもすることができ大変実りのある青全交となりました。

※一部抜粋。後半は次月掲載します。

2018年度 第2回 新入社員フォローアップ研修 参加報告

開催日：11月17日（土） 会場：サンスパおおむら

テーマ：チームで仕事をする力がアップする！「ワクワクチームビルディング」研修

2018年度、第2回新入社員フォローアップ研修が開催され、講師は県共育委員長の松本さんにお引き受けいただき、会員企業9社20名の新入社員の皆様が元気に参加されました。合同入社式まで含めると、

今回で3回目の顔合わせとなったわけですが、共通点探しなどのワークを通して皆さんすぐにコミュニケーションが取れていました。

チームビルディングのワーク研修では10名2組で



ボールを回すスピードを競うもの、4名1組でトランプを回し配るスピードを競うものを行いました。それぞれに、タイムを計測し、1回終了するごとに作戦を立て「どうすれば早くなるか」を楽しみつつも真剣に取り組んでいました。この研修からは生産性を上げることを考え、主体的に仕事に取り組むことの重要性を学ぶことができ、まさにPDCAを回し、失敗も経験しながら、より良い方法を探っていく感覚でした。

後半は、伝達力「伝える」と「伝わる」の違いについてのワーク研修でした。4名1組でそれぞれに“ついたて”を作り、組み合わせ次第で様々な形ができる4ピースのパズルを使って、一人が口頭で説明する形をどれだけ再現できるかというものでした。最初は驚くほどみんなバラバラで、伝える方も自分の説明で何故そんな形ができるのかわからないといった様子でした。都度ルール変更、作戦会議など入れながら、徐々に形が揃っていきます。それは、作戦会議によってパーツの共通認識を高めるなどの戦略を練り、許された質問のチャンスで如何に的確な質問をするかにかかっていました。「情報の共有」と「質問力」そして、オーダーを出す者の「伝える力」が必要でした。

この研修を通して、まず率直に伝えることの難しさ

を学ばれたと思います。普段から自分の言っていることは伝わっているのだろうか。また、良く伝わっておらずミスが出た時に、聞き手側ばかりの責任にしていなかったか。「伝わる」の定義は“自分との関わりによって相手が影響を受けて、自ら行動に移すこと”だそうです。つまり、相手が主体的に行動して初めて伝わったと言えるでしょう。

また、新入社員の方々ばかりではなく、会員の方々も楽しみながら「伝わる」ことの重要性と難しさを考える良いきっかけになりました。

結びに、松本委員長よりこの事を実践することの重要性が語られ第2回フォローアップ研修は閉会されました。

(文責 時 寛)



ダイバーシティ委員会 第11回 例会 開催報告

開催日時：11月13日(火) 18:30～20:40 会場：サンプリエール

テーマ：私たち、障がい者雇用ははじめました！～職場実習から雇用へ～

報告者：(有)野中木工所 代表取締役 野中 哲也 会員、(有)システム空調 代表取締役 下釜 寿彦 会員

長崎県中小企業家同友会では、2017年度よりダイバーシティ委員会としての活動を開始し、さまざまな違いを尊重して受け入れ「違い」を積極的に活かすことにより、変化し続けるビジネス環境や多様化する顧客ニーズに最も効果的に対応し、企業の優先性を創り上げるというダイバーシティの考えを取り入れ、ダイバーシティだからこそその活動を行うという活動方針を定めました。

第11回例会となる今回は障がい者雇用の実践編として、組織の中でどのようなステップを踏みながら障がい者雇用を実現したのかをご報告いただきました。

野中さんからは、パニック障害という初めて体験する障がいについて社員と共に「学ぶこと、知ること」からはじめ、朝礼などで社員に対応時の注意事項など、周知を図ることから徹底して実践して来た経緯の説明がありました。受け入れた実習生の過去の経験から「刃



物」が起因する可能性を聞き、実習開始時には刃物を見せないようにしていたそうです。しかし、それも社員とコミュニケーションを重ね、安心して実習をすごせる環境を提供することで、経過と共に作業台に Cutter やノコギリがあっても問題なく実習を過ごせるようになったとの報告がありました。

ろう学校の生徒の受け入れに際しては、筆談や手話を使用することなく、大きい声やゆっくり話すことを心がけるのみで、特別な配慮は必要なかったそうです。ただし、機械使用時の異常音などの察知が難しいために危険性があるため、リスク管理については一定の配慮が必要であることの報告がありました。

下釜さんは当初「実習をしぶしぶ受けた。」ものの、知的障害をもつ実習生が初日に、手を切らないようにと危険予知をし、2重に手袋をしてきた姿を見て考え方が変わります。とりあえず、掃除でもさせておけばいいとの考えで引き受けた実習だったとのことでしたが、動画で紹介される実習場面は、機械を用いて、複雑な作業をこなす実習生の姿でした。しかもその作業の様子はたった2日間で習得されたものだとのこと。障がい者の受け入れにはジョブコーチという指導教育の専門家が現場で直接指導する国の制度がありますが、下釜さんはその専門家に一度も相談することなく、実習を終了することができたそうです。実習受け入れの後、下釜さんの思いは「しぶしぶがワクワクに変わった！この子を雇用して育ててみたい！」へ変化し、雇用を決定。今では工場での組み立てのみならず、現場に出て排煙口等の開口作業までを立派にこなす一

社員へと成長を遂げていました。

下釜さんの目標は障がい者当事者に「資格」を取らせ、国家資格保持者として社会に認めてもらえるところまでに育てること。一人でも二人でも多くの障がい者の方に希望とチャンスを与えていただきたいとの思いを参加者へのメッセージとして残されました。

長崎県においては人口流出に伴う人手不足が深刻化しています。一方で、他県における自動車産業など製造業ではこれまでの積極的な障がい者雇用の実績、文化があり障がい者が会社における「戦力」として活躍しています。長崎県でも、ダイバーシティ委員会を中心として多様な障がいやマイノリティへの学び、理解、文化づくりに挑戦し、私たちの企業を発展させていきましょう！

(文責 長崎出島支部 貞松 徹)



V・ファーレン長崎



V-VAREN
NAGASAKI

応援マツト

ダスキン栄進 電話 095-823-7633

瀧川 隆 会員（長崎出島支部）

広告募集

< 4 cm × 9 cm >

複数月 割引	6ヶ月	12,000 → 10,000
	4ヶ月	8,000 → 7,000
	3ヶ月	6,000 → 5,000

What is 共同求人？

共同求人委員長 橋口 久

共同求人委員会連載コラム 第8回

共同求人活動を知るイベント情報！

共同求人委員会が設立されて半年が経ちました。共同求人委員会では設立初年度の今期を「**共同求人流布の年**」と定め、各支部の例会での周知活動を行っています。まだまだ知名度も低く、活動の内容もよくわからないこの委員会、ぜひ各支部の例会を通して共同求人活動を知ってください！

例会を通した共同求人流布活動

8月の諫早支部の例会を皮切りに、11月の島原支部例会、12月の佐世保支部例会にて共同求人をテーマに例会報告を行っています。各支部の共同求人委員長さんを座長に、県委員長の橋口が「同友会が目指す四位一体の経営一つをなす共同求人の意義と目的、そして、共同求人活動に会員さんがどう参画していくか」をお話します。また、「共同求人を知れば同友会がわかる」をサブテーマとし、同友会そのものがわかる目から鱗の報告内容となっています。ぜひ下記支部例会にご参加ください！

今後の共同求人関連イベント

- 1月23日 長崎浦上・出島支部合同例会
座長 吉澤 健 会員
(長崎浦上支部支部長兼共同求人委員長)
中尾 由花 会員
(長崎出島支部共同求人委員長)

- 3月20日 大村支部例会
座長 大塚 正一 会員
(大村支部共同求人委員長)

上記例会報告者：県共同求人委員長
橋口 久 会員 (佐世保支部)

終了した共同求人関連イベント

- ☑ 8月22日 諫早支部例会
座長 時 寛 会員
(諫早支部共育・共同求人委員長)
- ☑ 10月26日 経営フォーラム第1分科会
報告者 阿萬 英一朗 会員
(宮崎同友会共同求人委員長)
- ☑ 11月22日 島原支部例会
座長 倉原 徹 会員
(島原支部共同求人委員長)
- ☑ 12月18日 佐世保支部忘年例会
座長 中島 雄一 会員
(佐世保支部共同求人副委員長)



長崎浦上支部支部長兼共同求人委員長
吉澤 健 会員



長崎出島支部共同求人委員長
中尾 由花 会員



大村支部共同求人委員長
大塚 正一 会員



県共同求人委員長
橋口 久 会員

投稿募集のご案内

DOYU ニュースでは会員の皆様の投稿を募集しております。
企業訪問や支部・地区会等の行事や取り組みなどご紹介下さい。

●文字数／約 500 字

●画像／歓迎します

□掲載／情報広報委員会にて選考

□投稿先／情報広報委員または同友会事務局まで

□メール／jimu@nagasaki.doyu.jp



折込サービスのご案内

会員企業の皆様に制作されたチラシを広報誌と一緒に会員に配布するサービスを行っています。

毎月10日迄に事務局宛お届け下さい。発送は毎月20日～月末に行います。支部指定も出来ます。

A 4 チラシ 1 枚 5 円です。**A 3 チラシは 2 枚分**となります。ご利用お待ちしております。

長崎女子短期大学 模擬面接 参加報告

長崎出島支部共育委員会では、産学地域連携の一環で学生のキャリアサポートを行っております。11月29日には長崎女子短期大学の1年生に対して模擬面接会を開き、同友会から6名が参加しました。4名が面接官役となり、5名の学生をひとつのグループとして集団面接を行いました。今回は3つのグループに分かれ、1つのグループの面接シーンを、残り2つのグループがオーディエンスとして見て学ぶスタイルで実施しました。

特に最初のグループに関しては、表情も硬く、私たちにまで緊張感が伝わってくる程でした。そんな中、我が同友会メンバーは、その緊張をほぐすかのように、鋭い質問だけではなく、温かさのあるやり取りを行いました。日頃から第一線で活躍している皆さんはやはりこういう場で力を発揮するものだ実感いたしました。

第三グループにもなると緊張もほぐれ、質問に対してスムーズに受け答えできているように見受けられました。

その後、学生に対してフィードバックやアドバイス



を行いました。学生にとっても有意義な時間だったのではないかと考えております。

今後も長崎女子短期大学に関しては、毎年、1年次の11月、2年次の6月に模擬面接会を開く予定です。特に新卒採用を考えていらっしゃる方は是非ご参加いただければと思います。

若者の県外流出問題に歯止めをかけるよう今後とも頑張っています。

(文責 長崎出島支部共育委員長 山崎 貴彦)

九州・沖縄ブロック2018年度 代表理事・事務局長研修交流会&代表者会議 参加報告

開催日：11月1・2日(木・金) 会場：レンブラントホテル大分



昨年に続き第2回目となる、九州・沖縄ブロック代表理事・事務局長研修が大分同友会の設営にて一泊二日の日程で開催されました。長崎同友会から私、中村副代表理事、山田局長の3人で参加して参りました。

開会挨拶では中同協副会長の中村さんより①不離一体シートの作成 ②同友会の語り部を増やしましょう ③同友会運動の主人公は会員さんですが事務局は同友会運動の主体者ですというお話がありました。

現在、九州・沖縄ブロックの会員数は6577名ですが2019年度までに8000名を達成しようとの

宣言があり、各県目標数の発表がありました。長崎同友会は800名必達を宣言しましたが8000名達成のため900名への変更となりました。改めて長崎同友会への期待度の高さを痛感しました。私の仲間づくりに関する意識の向上が必要と思いました。

その後、報告となり徳島同友会代表理事 山城氏より「企業経営と同友会運動は不離一体～推進の要は事務局との信頼関係づくり～」のテーマで報告がありました。徳島同友会の特徴は連続会員増強中でありながら、退会者も非常に少ない事でした。その原因の一つが経営指針実践塾で小さな成功体験と感動を実感して貰うことに重点を置いて、一人の作成者に3人～5人の会員サポーターが指導する。作成出来なければ補講を繰り返し行い作成してもらう事で会員同士の強い絆が生まれ退会防止に繋がっています。長崎同友会としても経営指針作りについては参考にしなければならない所もあるのではと感じました。

グループ討論ではリーダーたるもの「将来のあるべき姿を会社においては社員さんへ、同友会においては会員さんへ示す」そのビジョン実現のために強い情熱、熱

意、執念を持って活動、運動すべしとの話になりました。

事務局については事務局としてビジョンを描く必要性はあるが、代表理事をはじめ同友会役員と一緒に作り上げ共有すべきである。代表理事と事務局長は不離

一体の関係でなければならぬ事が理解できました。事務局の充実と同友会運動において重要である事を再度確認して帰って来ました。

(文責 代表理事 金井 政春)

この度、金井代表理事、中村副代表理事と一緒に参加させていただきました。

金井代表に運転していただいた往復の車中は、まさに、今回の大きなテーマである、長崎同友会の今後のグランドデザインを描く貴重な時間となりました。

今回の開催趣旨は、

1、各県代表役員と事務局長で、今後の九州・沖縄ブロックの運動を展望し、進むべき方向を確認する場とする。

2、代表役員の役割と姿勢を確認し、事務局づくりを含めた運動のグランドデザインを描く。

3、会員増強の取り組みを強化し、2019年中同協5万名達成のための意思統一の場とする。

で、今回2回目となる本研修が、前回と違うのは、2日目を代表者会議としたことでした。

1日目は「企業経営と同友会運動は不離一体～推進の要は事務局との信頼関係づくり～」をテーマに、徳島同友会の山城代表理事（中同協副会長）と佐々木事務局長にご報告いただきました。

徳島同友会は、「労使見解」を基盤に据え取り組むことで、「人を生かし共に育つ」企業が増え、「連続増強」を続けています。その結果が地域活性化に繋がり、今では、教員の初任者研修も引き受ける等、学校をはじめ地域からの期待が非常に大きくなっています。

労使見解については、宇土委員長に役員研修会でわ

かりやすく説明いただきましたが、長崎同友会としても、まだまだ学習を深めなければならないと痛感しました。

その後、「代表役員・事務局長が共に運動のグランドデザインを描く」をテーマにグループ討論を行い、代表役員の皆さんと事務局が一体となつてこそ、グランドデザインが描かれることや、それぞれの地域の課題を経営計画書に入れ込み、解決に向け実践していくことの重要性等を学ぶことができました。

懇親交流会では、中村副代表理事を中心に全研をアピールさせていただきました。

2日目は、条例に関して、釧路市の地域内経済循環の取り組みについての説明等の後、各県の活動状況の報告・質疑が行われ、更にブロック内の連携を深めることができました。

エネルギーシフト問題等、長崎同友会としてはまだ取り組みが出来ていない事例もありますが、長崎同友会の取り組みは、確実に前進できていると確信できました。

今回、参加させていただき、各県の代表役員、事務局の皆さんとじっくりと話し合えたことで、ブロックの絆を深めることと、事務局として取り組まなければならないことを改めて認識することができました。今回得たものを今後生かして参ります。

ありがとうございました。

(文責 事務局長 山田 幸司)

新入会員の皆さんです <11月入会・復会>

(敬称略)

<入 会>

支 部 名	長崎浦上支部			
氏 名	にしおか じゅんじ 西岡 潤二			
企 業 名	お酒とお米の西岡屋			
役 職 名				
企 業 住 所	〒851-2127 西彼杵郡長与町高田郷57-1			
T E L	095-856-1577	F A X	095-856-7184	
業 種	米穀製造・配布			
企 業 P R	ご家庭から大規模事業所まで、様々なお客様とお取引させていただき約半世紀になります。お客様のご要望にお応えできるよう日々心掛けております。また「お米マイスターがいるお店」、そして「自社精米」であるからこそ出来る「安心・安全」を今後ともお届けしてまいります。			
スポンサー	浜本 義文			

支 部 名	長崎出島支部			
氏 名	おばた よしこ 小畑 佳子			
企 業 名	美顔メディカルサロンのりえ			
役 職 名	代表者			
企 業 住 所	〒852-8155 長崎市中園町2-4 岡村ビル2F			
T E L	095-845-7399	F A X	095-845-7350	
業 種	美肌と健康サロン			
企 業 P R	長崎の女性に、毎日ぐっすり眠って、すっきり起きて、痛いところがなく、疲れにくく、自分の時間を楽しく過して、きれいと元 気と笑顔を手に入れていただけるよう、痛みをがまんしなくて いい、服を着たまのリンパケア、敏感肌対応フェイシャルケア、 呼吸レッスン、メンタルケアなどをトータルでお届けしています。			
スポンサー	久松 恵			

会員活躍

長崎新聞 11月1日
佐世保支部 池田 乃 会員

佐世保工業高にデジタルタイマー寄付 しんきんCSR私募債発行企業



目録を手にする中村常務(右)と蔵島さん
佐世保工業高

(後藤洋平)

九州ひぜん信用金庫は、佐世保市のトラックパーツ西九州d.o.t.c.o.m.が発行した、しんきんCSR私募債「輝く未来」を受託し、その手数料の一部で、県立佐世保工業高(長池紀英校長)にバスケットボール用デジタルタイマーを寄付した。10月24日は瀬戸越3丁目の同校で贈呈式があった。

地方創生の一環で、学校への寄付を目的に昨年度始めた。発行額は5千万円。この0.2%相当額を同信用金庫と財務代理人の信金中央金庫が負担して購入した。

式で、同信用金庫の松永功理事長は「企業とタッグを組んで、子どもたちを応援したい」とあいさつ。同社の中村智博取締役常務は「生徒の活躍を願いたい」と述べ、バスケット部主将の蔵島新大さん(17)は2年目に目録を手渡した。長池校長は「いろんな方々の尽力での寄付。大切にに使わせていただきます」とお礼を述べた。

長崎新聞 11月7日
長崎出島支部 土井 幸喜 会員
諫早支部 上野 辰一郎 会員

長崎新聞 11月16日
佐世保支部 小村 泰久 会員、近藤 米明 会員



RPAの稼働状況を認める社員

佐世保市幸町 九州ガス

九州ガス、RPA導入

パソコン定型作業を自動化

九州ガス(諫早市)はパソコンの定型事務作業を自動化するRPA(ロボティック・プロセス・オートメーション)を導入した。人工知能(AI)やロボットを活用する「第4次産業革命」や働き方改革で注目される中、地場中小企業では先進事例とみられ、同社は「これから可能性を探る」としている。

九州ガスが導入したのは、国内大手のRPAテクノロジーズ(東京)が開発したサービス「ビスロバ」だ。代理店の松本(長崎市)、技術協業パートナーのドゥアイネット(同)と10月に業務委託契約を結んだ。人間が日常作業を掛け換

先進事例「可能性探る」

作しているパソコン上の処理をソフトウェア・ロボットに記憶させる。例えば、同社はレンタル用ファンヒーターを毎年1500台程度更新。これまでは形式や製造年月日など約20項目を営業社員が表計算ソフトに、事務社員が社内基幹システムにそれぞれ入力していた。今は実行ボタンを押すだけでデータが移行し、計3200台間の作業を短縮できた。同社は「より速く、打ち間違いも再チェックの必要もない」という。

松本によると、自前サーバに導入できるのもメリット。型ビスロバは初期費用20万円、年間費用240万円が、研修を受ければ、専門的なプログラミング知識のない自社社員でも、ロボット

に動作を記憶させ機能も拡充できる。

今後はクラウド機能を活用し業務管理や給与計算に広げる方針で、ロボットに代わらせる業務を洗い出している。給与計算の自動化と業務集約により総務6人の削減を見込む。

こうして抽出した人員を要林宏代表取締役(33)は「ロボットにはできない営業やコールセンター業務に投入したい」とする。その上で「ガスだけ売ればいい時代ではない。お客さまの住まい、暮らしをコーディネートしていく総合エネルギー会社へ脱皮を図る」と意気込む。

協調融資商品を創設

西海みずき信組と日本公庫



覚書を手にする(左から)島口支店長と陳内理事長=佐世保市、西海みずき信用組合本部

佐世保市の西海みずき信用組合(陳内純英理事長)と日本政策金融公庫佐世保支店(島口憲一郎支店長)は15日、創業や事業承継をサポートする協調融資商品「1000万馬力」を創設した。九州の信用組合で初めて、これに合わせて業務連携・協力に関する覚書も結んだ。

商品は、県内で創業や事業継承に取り組む事業者を支援する。それぞれ上限1千万円(総額2千万円)までの融資が可能。地元根

ざした信用組合と、事業性融資のノウハウを持つ日本政策金融公庫の双方の強みを生かし、顧客を幅広く手助けする狙いがある。

西海みずき信用組合の前身、長崎県民信用組合と佐世保中央信用組合は、それぞれ同様の覚書を結んでいた。合併を受けてあらためて締結。協調融資商品の取り扱いを通し、さらに連携を深める。

松川町の西海みずき信用組合本部で締結式があり、島口支店長は「地域の情報

を熟知した信用組合との連携で、サービスの広がりが期待できる。県北企業の発展に役立ちたい」とあいさつ。陳内理事長は「日本政策金融公庫が持つレベルの高いノウハウを得て、小さな金融機関でも、(親和、十八が合併して誕生する)大きな地銀にも負けない支



長崎新聞 11月20日

長崎出島支部 田島 光浩 会員

ながさき農林、水産業大賞 印東など32個人・団体表彰

優れた農林水産業者の功績をたたえる「ながさき農林業大賞」「ながさき水産業大賞」の表彰式が17日、

長崎市内であり、特色ある事業や経営基盤の強化などが評価された計32の個人・団体に表彰状が贈られた。いずれも県や関係団体でつくる運営委員会が主催。



式に出席した中村法道知事は「それぞれの地域・分野で先頭に立ち、力強いリーダーシップを発揮してほしい」とあいさつ。溝口美実雄県議会議長は「本県の農

中村知事（右）から表彰状を受け取る受賞者
＝長崎市元船町、平安閣サンリール

林水産業の活性化、地域振興への貢献に深く感謝する」と祝辞を述べた。

このうち、からすみなど県産品の需要拡大に貢献したとして、ながさき水産業大賞「魅力ある経営体部門」で最高賞の知事賞を受けた印東（長崎市京泊3丁目）の印東晃代表は「経営全体が評価され、ひときわつれしい。今後ますます販路を拡大したい」と喜びを語った。（岩佐誠太）

長崎純心大と南高愛隣会 地域の福祉向上へ協定

長崎純心大（長崎市）と社会福祉法人・南高愛隣会（諫早市）は16日、地域社会の福祉向上や人材育成などにつなげる包括連携協定を締結した。

主な連携内容は、県内で不足する福祉人材の養成のため、同会が実習生の受け入れを強化したり、同大の研究者らが、同会利用者に

対するアンケートなどを実施し、実地活動を通じた学術的データの収集、分析をしたりする。

長崎市三ツ山町の同大で調印式があり、同会の田島光浩理事長は「学生が福祉の面白さを知る機会が少な



協定書に調印した片岡学長（右）と田島理事長＝長崎純心大

い中、連携を深め、仕事の魅力を伝えていきたい」、片岡瑠美子学長は「事業所と大学が、知的データや経験を合わせ多職種連携を進め、長崎の若者を育てたい」と述べた。

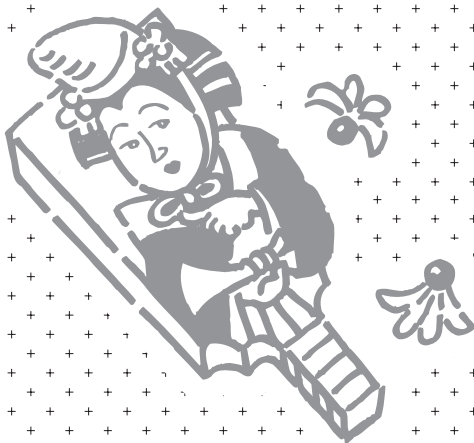
（大田裕）

長崎新聞 11月20日

長崎浦上支部 印東 晃 会員

北松浦支部 井手 眞悟 会員

（ながさき農林業大賞「特産部門」県知事賞受賞）



事務局企業訪問

今回は諫早支部の(株)未来 山崎三郎さんを訪問しました。



【(株)未来】

山崎さんは諫早市内で生まれ育ち、高校卒業後、市内の会社に就職し、そこで20年以上勤め、40歳の時に(株)未来をたちあげ独立しました。独立時は奥様と育ちざかりのお子さんが4人いて、大変な時期でしたが、子供の頃からの社長になるという夢をあきらめることはありませんでした。

会社名は当初この業界で一般的な〇〇設備にしようと考えましたが、将来的に異業種にも進出することを見据えて、あえて「設備」をつけず、文字通り「未来」を創る会社としてスタートしました。

(株)未来は、主に諫早市内で一般住宅や工場等の給排水工事や一般住宅のトイレ、お風呂といった水回りのリフォーム工事、下水工事等を行っています。

現在は、下請けとしての給排水工事の割合が高いですが、いずれは元請けとしてリフォーム工事の割合を高めていきたいと山崎さんは考えています。

一方で業界自体は人手が不足し、職人さんの平均年齢が50～60代という会社が多いなかで(株)未来は平均年齢40代と若いほうですが、人材の確保には苦労しておられるようです。

【地域に貢献したい】

生まれ育った地域の皆さんからいつもかわいがってもらっていると語る山崎さん。地域からの様々な仕事の依頼をすべて引き受け、地域の行事にも積極的に参加しています。地域の方からの「ありがとう」が山崎さんの原動力となっています。

また、この地域は若い人が段々と少なくなっているようですが、地域の青年団を結成し、皆が地域に集まる企画を実施する等、この大好きな地域を維持していく活動にも取り組んでいます。山崎さんのこうした思いが地域の皆さんに伝わり、地域との良い関係がで



きているのではないかと思います。

【同友会に入会して】

同友会には2014年2月に入会しました。入会してからは、例会活動はもちろんのこと、例会委員長を務めるなど委員会活動にも積極的に参加し、現在は諫早支部の副支部長を務めています。



同友会では異業種の会員と意見を交わすなかで多くの学びを得て、すぐに社内で共有し、社員もそれを生かして仕事に取り組んでくれているそうです。

また、同友会に入る前から会社の「未来」についてのビジョンを持っていた山崎さんでしたが、経営理念という概念はありませんでした。諫早支部の先輩会員の方々から「あなたの原点は何ですか」と問われ、助言をいただきながら経営理念の作成に取り組み、常に心に持ち続けている思いをこめて「未来」につながる経営理念を作成しました。

<経営理念>

全てはあなたからの「ありがとう」のために

取材中は、将来の異業種への進出や地域への思いについてとても生き生きとした表情で語っていた山崎さん。地域と会社の「未来」の可能性が大きく広がっていくような素敵な話を聞かせていただきました。

今回はお忙しい中、取材にご協力いただきありがとうございました。

<会社概要>

(株)未来

〒854-0031 諫早市小野島町2573

TEL: 0957-47-9761 FAX: 0957-47-9762

(文責 事務局 森川 健吾)

12月理事会 報告

12月5日(水) つくば倶楽部 出席26名 欠席8名

開会あいさつ (抜粋) - 金井代表理事

全研実行委員会から引き続き大変お疲れ様です。中同協の平田事務局長からは、全研実行委員会で様々な貴重な意見をいただきました。理事会でもまた貴重な意見をいただければと思います。

ごあいさつ (抜粋) - 中同協 平田事務局長

前回参加させていただいた際は、佐世保支部会員の方々の企業訪問をさせていただき、なぜ佐世保支部が伸びているのか、4つの理由がわかりました。一つ目は年齢・性別問わず多様性があるメンバーがリーダーシップをとっていること。二つ目は、第一線を引かれた会員さんも、若い方が挑戦することを後押ししてくれること。三つ目は会員さんが互いの経営計画発表会に行きあうなど同友会が目指す企業づくりができていること。四つ目は佐世保支部が実績を積み上げて、支部が丸となるようなエネルギーがあることだと思います。長崎全研は中同協が50周年を迎える最初の行事となります。本日はよろしくお願いします。

仲間づくりについて

1)入会・復会・退会の承認について - 22名の入会、1名の復会、2名の退会を承認

2)仲間づくりの進捗状況・具体的活動状況について

・原田仲間づくり委員長 総括 - 11月14日の仲間づくりの日は大変お疲れ様でした。結果的に23名の入会をいただきました。仲間づくりマニュアルも作成し、今期は現在55名の増となっています。12月3日に委員会を開催し、当日の報告をしました。支部で拠点を設置し、会歴が長い会員と入会したばかりの会員が交流し、増強の強の取り組みもできたとの意見もありました。また、新入会員のお店を拠点にして交流につなげたという報告もありました。表彰も行い、1位が5名で最優秀支部賞は長崎出島支部でした。反省としては、各支部の委員長や一部会員の活動になっているという意見もあったので、全会員が取り組む活動として周知していただきたいと思います。

・金井代表理事 - 大変お疲れ様でした。目標を達成することはできませんでしたが、仲間づくり委員会は非常に結束力も高いので反省点をしっかりあげて取り組んでいただきたいと思います。次回は1月17日全研開催前となりますので、少なくとも800名で迎えられるように目標を死守していただきたいと思います。

※表彰 11月14日 第2回県下一斉仲間づくりの日(対象期間 8月7日～11月14日)

【最優秀支部賞】

長崎出島支部 9名(2位 佐世保支部6名 3位 島原支部4名)

【スポンサー賞】

1位 2名推薦(5名)

・長崎出島支部 - 中村こずえ会員、萩田会員、安井会員
・島原支部 - 山田会員 ・五島支部 - 山本会員

協議・承認事項

1)経営フォーラム(10月26日) 決算報告と承認について - 峰事務局長次長(村上実行委員長代理)
→決算を承認

2)来期に向けて

・活動方針案について - 金井代表理事

→委員会、支部役員会で確認・検討後、12月20日までの意見提出を確認

・組織体制ならびに委員長人事について - 金井代表理事→1月理事会で承認を得ることを確認

・予算案について - 山田事務局長(上野財務委員長代理)

→委員会、支部役員会で確認・検討後、12月20日までの意見提出を確認

・第48回定時総会について→式次第と会費について承認

3)賀詞交歓会について(2019年1月15日(火))ホテルニュー長崎 - 山田事務局長

→動員目標と予算案について承認

(動員目標)

	浦上	出島	大村	諫早	島原	佐世保	北松浦	五島	合計
会 員 数	112	110	101	87	71	182	43	32	738
目 標	30	30	24	21	18	39	10	8	180

4)共同求人委員会からの「特別活動費」申請の件 - 橋口委員長 福岡同友会 新卒採用合同企業説明会(3月22日) 出展費用

→特別活動費の拠出並びにe.doyuでの会員への周知について承認

5)2019年度 経営フォーラム(担当 諫早支部)について - 馬場支部長

→各支部役員会で検討し、12月20日までに意見提出を依頼

報告・連絡事項

1)11月 県本部・支部・委員会等の活動状況について

＜委員会等＞

例会	11月14日(水)五島支部例会の前後に第6回例会委員会を開催。 第1部(例会前) …各支部例会状況の報告、今後の例会委員会の日程、来期の例会委員会について、五島支部の現状報告について。その後、五島支部例会へ参加。 第2部(例会後) …その日の五島支部例会についての意見交換。
経営労働	活動計画 1)経営者塾の開講 11/9 企業変革支援プログラムⅠ 3名参加 2)経営指針実践セミナー2018の開催 県主催 11/3 No.5開催 9名参加/20名申込 11/23 No.6開催 8名参加/20名申込 島原 11/13 No.3開催 5名参加/7名申込 北松 11/19 No.3開催 9名参加/12名申込 3)県委員会活動、支部委員会活動の活発化 11/28 No.3委員会を開催 参加:長崎出島・諫早・佐世保・島原 今期の活動状況の報告、来期に向けて「経営者塾」の支部の企画を依頼
共有	11月12日 第3回経営者と経営幹部の共有研修開催(最終回) 11月17日 第2回新入社員フォローアップ研修開催 参加者20名
政策	■11/15(木)・16(金)「第35回中小企業憲章・条例推進本部会議と政策委員会合同会議」 ■11/21(水)18:00～20:00「長崎県景況調査(企業ヒアリング調査)について」 ■11/22(木)長崎全研第12分科会「第1回座長・室長ミーティング」
情報広報	11月19日(月)19時～ 同友会事務局にて委員会を開催。 1. 広報誌 編集会議 2. ホームページについて 現時点、全研のバナーの表示のみ ※リンク貼りは全研ホームページ出来次第行う。 3. e.doyu利用 ・10月の利用率は57%→経営フォーラム開催月の為、例会を開催しなかった支部があり利用率が低下したと思われる 4. その他・情報交換 ・第4次ビジョン最終年度検証アンケート(回答期日:12月10日(月))について内容確認 ・『個人情報保護について』勉強会の開催(12月3日(月))内容再確認(役割分担含む) (理事会での補足) 12月3日に開催した個人情報保護勉強会についての報告。
仲間づくり	10月29日(県委員会)→11月14日(県下一斉仲間づくりの日)

	各支部で県委員会の方針に沿った形で「仲間づくりの日」を開催していただいた。当日はLINE等を通じて支部ごとの状況の報告が出来ていた。12月3日に県委員会を開催し、委員会を開催し、11月の反省点の確認、そして、次回1月の仲間づくりの日に向けた取り組みの確認を行う。		と責任感に感服している。 ・11月30日：県委員会を開催予定 【今後の予定】 ・12月18日：佐世保支部忘年例会「共同求人委員会概論」（報告者：橋口、座長：中島共同求人副委員長） ・1月23日：浦上・出島支部合同例会：「共同求人委員会概論」（報告者：橋口、座長：吉澤支部長・中尾共同求人委員長） ・3月22日：福岡同友会主催「2020新卒採用合同企業説明会」
ビジョン	11月19日(月)第8回委員会を開催し、経営労働委員会、共有委員会、ダイバーシティ委員会、共同求人委員会の第5次ビジョンについて協議。 《経営労働委員会》 【第5次ビジョン(確定)】 人を生かす経営が実践されている。 ① 全会員が「経営理念」を持っている。 ② 会員の50%が「経営指針」を作成している。 ③ 会員の50%が「企業変革支援プログラムⅠ」を登録している。 ④ 会員の20%が「企業変革支援プログラムⅡ」を活用している。 ⑤ 「働く環境づくりのガイドライン」を利用し、就業規則を作成、見直ししている。 《共有委員会》 【第5次ビジョン(案)】 ① 経営者と社員が一緒に学ぶ共有セミナーが定期的に行われ、経営者と社員が共に成長している。 ② 地域社会に学びの場を提供している。 《ダイバーシティ委員会》 ・5次ビジョン作成にあたり、来期からの活動目的を修正。 【第5次ビジョン(確定)】 ① 性別、年齢、国籍、障がいの有無にかかわらず活躍できる場を提供できている。 ② 行政や学校関係との連携ができている。 《共同求人委員会》 【第5次ビジョン(案)】 ① 共同求人が行われるための企業環境が整っている。 ② 2020年に合同企業説明会や求職者に響くイベントの開催並びに仕組みができている。 ・ビジョン到達への「8つの柱」について再協議を行い、「7つの柱」として修正。	青年経営者会	・11/8役員会。青全交、臨時総会、全研に向け活発に意見が出、活気ある役員会になりました。 今年度は青経会勢100名を目指し活動しておりますが、現在達成率は70%強。全研までの残り3か月、ラストスパートをかけていきたいと思っております。 来期は新会長のもと更に進んだ組織作りを行う予定で、県内を3エリアと離島に分けて各エリアで青経独自の例会が出来るように進めて参ります。また各エリアに「エリア長」の役職を新設し、役員会はネット会議で各エリアと離島を結び、価値的な効率化を図る計画となっています。
			2)例会について(更なる充実をめざして)－岩例会委員(本多例会委員長代理) ・各支部へのヒアリング 3)第49回中小企業問題全国研究集会について(2019年2月21・22日)－松尾実行委員長・中同協 平田事務局長 ・長崎同友会で2分科会を担当(「ダイバーシティ」と「政策」) 報告者 ダイバーシティ 中村副代表理事・菅原ダイバーシティ委員長 政策 園田大村市長・時政策委員長 ・12月5日 理事会前に第13回実行委員会開催 4)中同協 主要行事の参加状況と報告 ・11月15・16日 中小企業憲章・条例推進本部と政策委員会との合同会議 参加報告－時委員長 5)その他 ・中同協50周年バッジ・ネクタイ・スカーフ等の紹介について－山口専務理事 ・長崎同友会青年経営者会 創立35周年記念懇親総会開催の報告－安井青年経営者会会長 ・2019年度経営者塾について－宇土委員長 →2019年度経営者塾の取り組み希望について、各支部で確認・検討し、12月20日までの意見提出を確認
ダイバーシティ	・12月4日(火) 委員会開催 ・1月9日(水)、2月4日(月) 全研シミュレーション ・2月21・22 (木・金)全研第6分科会担当(報告者は中村こずえ副代表理事、菅原委員長) ・3月 全研分科会の反省会、勉強会予定		
共同求人	【11月の活動】 ・11月22日：島原支部例会「共同求人委員会概論」（報告者：橋口、座長：倉原共同求人委員長） 8月の諫早支部例会に続き、共同求人委員会流布活動第2弾を島原例会で開催。島原支部委員会会員の皆さんも熱心に聞き入ってください、「選ばれる企業づくり」をテーマとしたグループ討論も大いに盛り上がった。また、諫早例会の座長であった時会員同様、今回の倉原会員の座長のまともも秀逸だった。委員会設立7ヶ月目でありながら、共同求人委員会会員の皆さんの委員会活動に関する理解の深さ		

※次回開催確認 1月7日(月) パークベルズ大村

会員動向

会 員 数 (12月1日現在)

	浦上	出島	大村	諫早	島原	佐世保	北松浦	五島	合計
目標	150	130	125	100	100	200	55	45	(1000)
期首	113	105	87	79	66	160	43	31	684
現在	112	103	96	87	66	177	43	32	716

退会者 (敬称略)

会 員 名	会 社 名	支部名	入会年月
森 寛 二	(有)アトラス	長崎出島	2017年 12月
円 田 剛 士	波佐見・円田保険事務所	大 村	2015年 3月

●企業住所等変更

藤井 誠 会員 (大村支部) 新役職：常務取締役	西尾 廣幸 会員 (諫早支部) 新住所：〒859-0117 諫早市高来町峰468-27 新TEL番号：0957-32-4028 新FAX番号：0957-51-6275
馬場 絵美 会員 (島原支部) 新住所：〒855-0877 島原市浜の町丁182 新TEL番号：0957-73-9230 新FAX番号：0957-73-9231	

1月例会案内

他支部の例会情報は、ホームページや e.doyu から閲覧・参加申込可能です。

●長崎浦上支部・長崎出島支部

日 時 1月23日(水) 18:00～20:30
会 場 サンプリエール
テ ー マ 共同求人委員会の目的について
報 告 者 プライアント(株) 代表取締役社長
橋口 久 会員(佐世保支部)

今年度より長崎同友会に共同求人委員会が発足いたしました。でも多くの方がおっしゃいます、共同求人委員会は、なんばする委員会ね。残念ながら委員会に対する興味はあまり感じられません。しかしながら他県同友会においては、すでに委員会活動が活発に行われ、重要な取り組みとして捉えられています。そこで両支部の共同求人委員会として、まず委員会の目的を会員各位にご理解いただきたく、この合同例会を企画しました。この委員会は共同求人と言いながら、「最大の目的は共同求人にあらず」一体どういことでしょうか？ 中同協においても『同友会運動の集大成』との位置づけとなっています。『求職者から選ばれる企業づくり』のために、橋口久委員長をお招きし、共同求人委員会の真の目的について、熱く語っていただきます！会員の皆様！自社経営のヒントや新たな挑戦への活力になる学びがあります。

●大村支部

日 時 1月17日(木) 18:30～21:00
会 場 パークベルズ大村
内 容 慶祝例会

還暦・厄入り厄払い対象者への記念品の贈呈。新年最初の例会という事で、会員相互の志気が上がる例会とするために、各人1年間の目標・決意を色紙に書いてもらい発表していただく。また、懇親会を通じて会員相互の親睦をはかる。

●諫早支部

日 時 1月23日(水) 18:30～21:00
会 場 諫早観光ホテル 道具屋
テ ー マ 諫早に来てみて
～諫早の特徴と魅力とは～
報 告 者 諫早市 副市長
大水 敏弘 氏

諫早といえば、眼鏡橋、うなぎ・・・でもそれだけじゃない！諫早をPRしたいけど、自然が豊かとか、人がやさしい、じゃ伝わらない！岩手県大槌町や水戸市など、全国各地のまちづくりに取り組んできた経験から、諫早に来てみての印象、その特徴や魅力を語ります。そして、諫早の魅力を伝えようと始まった最近の取組についても紹介します。

●島原支部

日 時 1月24日(木) 19:00～21:15
会 場 HOTEL シーサイド島原
テ ー マ 未定
報 告 者 (有)シュシュ 代表取締役
山口 成美 会員(大村支部)

●佐世保支部

日 時 1月22日(火) 18:30～21:00
会 場 魚魚の宿
内 容 慶祝例会

●北松浦支部

日 時 1月19日(土) 18:30～20:30
会 場 サンパーク吉井(仮)
内 容 未定

新年懇親例会を兼ねて、今後の例会を真剣に考え、意見を交える！

●五島支部

日 時 1月16日(水) 18:30～21:00
会 場 福江総合福祉保健センター
テ ー マ 例会(グループディスカッション)について
報 告 者 五島トラック建設(有) 取締役
谷川 喜一 会員

例会(グループディスカッション)について会員で再確認します。グループディスカッションの意義、グループ長の役割、発表者の役割について今一度整理します。会歴の浅い会員はもとより、ベテラン会員の皆様も復習の意味を込めまして、ご参加願います。

●青年経営者会

日 時 1月29日(火)
会 場 アルカスSASEBO
内 容 未定

長崎全研

2019年は長崎にて中小企業問題全国研究集会が開催されます!!
2019年2月21・22日開催まで

あと

64

日!!

※12月19日現在